

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成31年4月26日現在

今月の重点活動

■スマート農業 第1回スマート農業実証コンソーシアム会議を開催

4月11日、JAぎふ巣南支店にて、超低コスト輸出用米スマート農業実証コンソーシアムの第1回会議が開催された。

この会議は、瑞穂市にある（農）巣南営農組合が国のスマート農業加速化実証プロジェクトにて、無人トラクター等を導入し、輸出用米の超低コスト生産実証に取り組むこととなり、今年度の実行計画等を検討するため開催された。

会議では、巣南営農組合をはじめ、岐阜農林事務所や県農政部担当課、瑞穂市、JAぎふ、JA全農岐阜県本部、（一社）岐阜県農業会議、農機メーカーなどの関係者が出席した。

農業普及課は、関係機関と連携し昨年度の実証計画立案から支援してきたが、プロジェクトが始動する今年度は、進行管理役及び普及指導機関として、経営管理・生産技術の指導と実証内容の検証を行う予定であり、このプロジェクトを通してスマート農業技術の定着に向け、調査や指導を進め地域への普及に取り組んでいく。

（地域支援第三係・松本政行）



【関係者で方針を検討】

新たなブランドづくり

■ニンジン ブランド推進員が設置される

農業普及課では、各務原市にんじんを対象に「新たなブランド創出支援事業」にて「にんじん共同選果施設を核にした産地拡大」の課題に取り組んでおり、収量品質向上と市場への安定出荷、加工品開発や消費宣伝活動等の支援を行う計画である。

4月10日には、各務原市園芸振興会にんじん部会役員会が開催され、栽培体系確立や消費宣伝活動を行うブランド推進員が若手を中心として部会内に設置された。

役員会では早速、5月の連休明け頃から始まる春夏ニンジン出荷に合わせて「各務原にんじん料理コンクール」や収穫体験など今年度の消費拡大活動について検討した。

また、ブランド化推進の一つとして、農業普及課から近年、品質低下で問題となっているニンジンの黒あざ症対策について原因等を説明、対策の徹底を図った。

（地域支援第二係・水川 誠）



【出荷間近のニンジン】

多様な担い手づくり

■いちご 全農いちご研修施設就農支援会議が開催

4月23日、全農いちご研修施設の11期研修生の修了認定と新たに研修を受ける12期生を対象とした就農支援会議がJA会館で開催された。

今年度の修了生は4名あり、管内で営農開始する者は3名（岐阜市2名、各務原市1名）である。また、新たな修了生4名のうち2名が管内（岐阜市1名、山県市1名）での就農を希望している。

農業普及課では、今年度営農を開始する新規就農者への技術



【就農支援会議の様子】

指導のほか、新たな研修生の農地の確保や就農計画の作成など来年度の就農に向けて関係機関と連携し、支援をしていく予定である。 (園芸産地支援第二係・三和浩一)

売れるブランドづくり

■ 水稲 水稲青空教室担当者研修会を開催

4月15日、アグリパークにおいて、JAぎふ主催による「第1回青空教室担当者研修会」が開催された。

研修会では、農業普及課職員が講師となり、JAの営農担当者約50名を対象に、育苗方法や移植後のトラブル対策等について技術指導を行った。

JAぎふでは、今後も営農指導員への研修会を開催し、水稲栽培技術の統一を図っていくこととしており、農業普及課としてもJAと連携して農業者への指導のため、技術情報の提供等を通して営農指導員を支援していく。



【営農指導員への研修】

(地域支援第一係・小島康平)

■ トマト トマトポット耕でJGAP取得へ

岐阜県就農支援センターを卒業し本巣市で就農したトマトポット耕生産者が、管内で先駆けてJGAPを取得した指導農業士の支援も得ながら、県GAPアドバイザー派遣事業を活用し、JGAP青果物2016取得に向けて昨年から取り組んでいる。

4月19日には、農業普及課の支援のもと審査前の必要な箇所の改善を終え、初回審査を受けることとなった。当日の審査では、数件の是正処置があったものの重大な指摘はなく是正処置を提出後、認証となる見込みである。

管内でのトマトでのJGAP取得は2件目の事例であり、農業普及課では一層のGAPの普及と支援を進めていく。

(地域支援第三係・野村康弘)

■ だいこん 春だいこんの品種試験調査を実施

JAぎふだいこん部会では、岐阜市内のだいこん生産ほ場において、春だいこんの品種試験を実施しており、4月2日には農業普及課にて収穫調査を実施した。

春だいこん品種には、抽苔や根の形状、内部品質、葉の品質等が求められ、調査した3品種の中で揃いや詰まりが良い有望な品種を見出すことができた。

農業普及課では、高品質で安定生産できる品種の検索・導入を推進するため、JAぎふだいこん部会と連携し、有望品種の絞り込み等を支援していく。

(園芸産地支援第一係・高橋 幸蔵)



【だいこん品種調査】

■ かき 摘蕾講習会開催される!

4月下旬から管内各地で摘蕾講習会が始まった。摘蕾は柿の大玉・高品質生産のために最も重要な作業の一つであり、毎年、この時期に開催されている。

講習会では、農業普及課が講師となり、今年の生育状況を踏まえポイントを説明、摘蕾作業を実演しながらの技術指導となった。

また、県が普及を進める新品種「ねおスイート」についても、講習会と合わせて着蕾調査を行い、昨年度の着果習性結果とともに、栽培協議会にて情報提供を行った。

(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣孝)



【摘蕾講習会の様子】